

機器器具の自動接続

目次

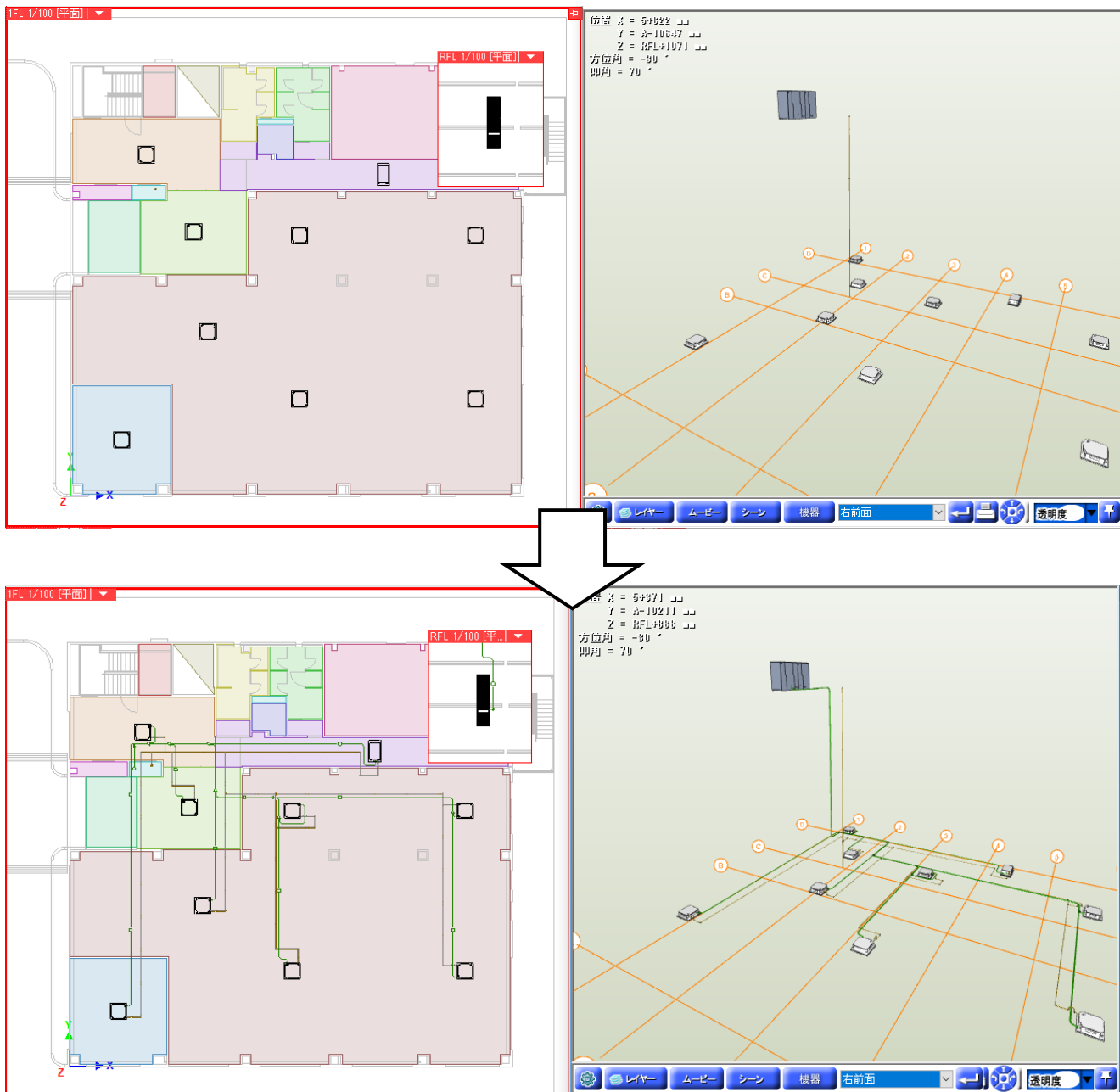
1. 機器器具の自動接続について	2
2. 冷媒管の自動接続	4
3. ドレン管の自動接続	9
4. 自動接続の設定の作成・保存	13

自動接続の設定の新規作成

自動接続の設定の保存・読み込み

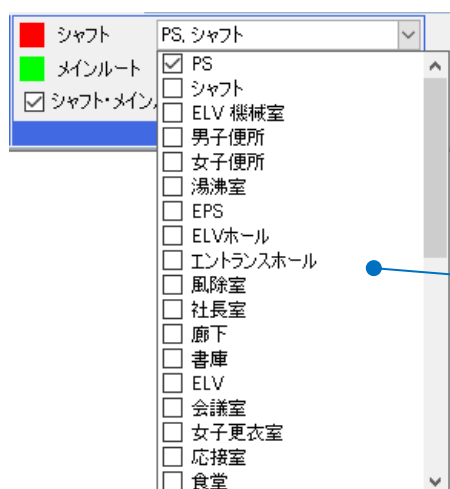
1. 機器器具の自動接続について

[機器器具]タブ-[自動接続]で、室外機もしくは縦管から室内機のための冷媒配管やドレン管を自動で作成し、機器を接続することができます。



縦管位置やメインルートは部屋を選択することにより判断します。

[ツール]タブ-[部屋]コマンドで先に図面上に部屋を作成しておくこと、縦管を通す位置やメインルートの位置を指定できます。



縦管位置などを決める際に表示される部屋リストは、[ツール]タブ-[部屋]の[部屋一覧]と連動しています。

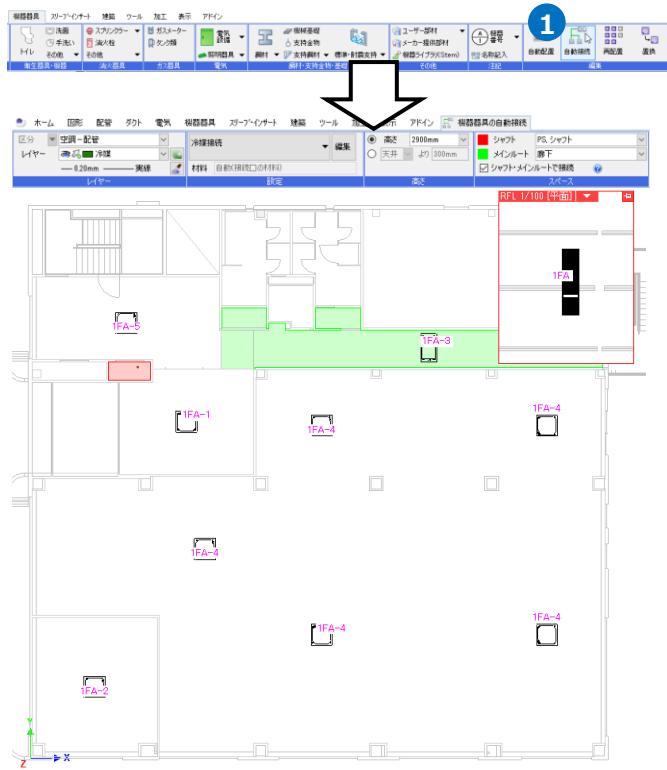


[部屋]の詳細については、テクニカルガイド「[カスタムプロパティ・ゾーン・システム管理・部屋](#)」をご参照ください。

2.冷媒管の自動接続

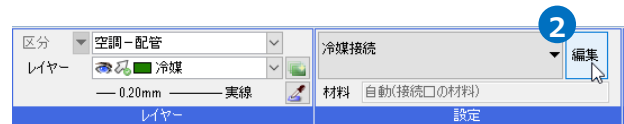
始点の室外機と終点の室内機を選択し、冷媒管のルートを一括で作図します。

- 1 [機器器具]タブ-[自動接続]をクリックします。
→シャフト、メインルートで選択されている部屋が指定色で表示され、機器器具の機器番号が設定されている場合、ラバー表示されます。



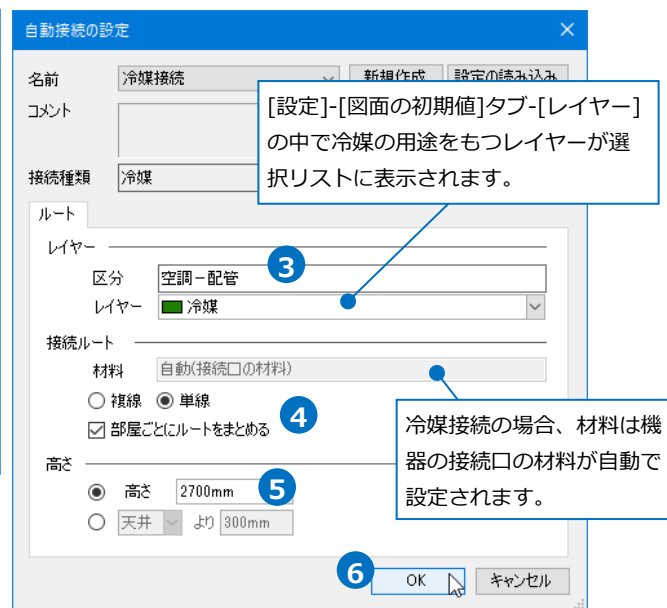
- 2 設定は[冷媒接続]を選択し、[編集]をクリックします。

- 3 [自動接続の設定]ダイアログが開きます。レイヤー「冷媒」を選択します。



- 4 接続ルートは「単線」を選択し、[部屋ごとにルートをまとめる]にチェックを入れます。
※[部屋ごとにルートをまとめる]については、p 7補足説明参照。

- 5 「高さ」は、「2700」と入力します。



Memo

高さは、入力値を機器の基準フロアからの相対高さとしてルートを作図します。

高さ 2700mm

天井より 300mm

機器を配置している部屋の天井、床からの相対高さを指定して作図することもできます。

高さ 2700mm

天井より 300mm

天井

床

- 6 [OK]をクリックして設定を閉じます。

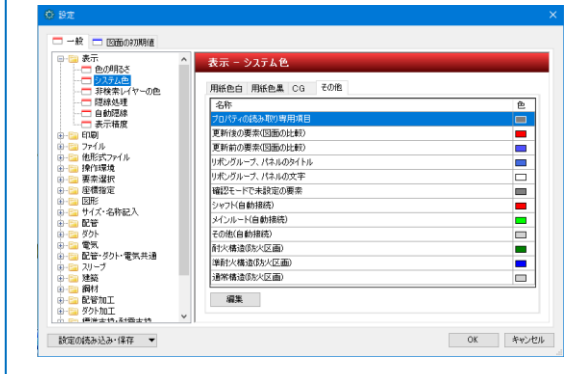
- 7 縦管を通す位置を、[シャフト]の部屋リストから選択します。

今回は[PS]にチェックを入れます。

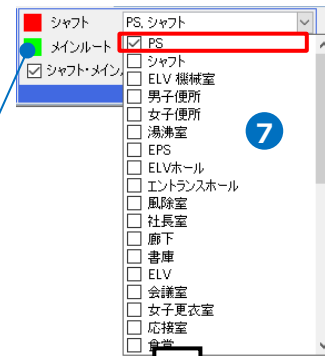
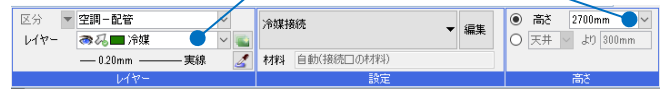
Memo

[シャフト]で、チェックを入れた部屋が複数ある場合は、始点側の機器や縦管から一番近い部屋に作図されます。

色分けの設定は、[設定]-[一般]タブ-[表示]-[システム色]の[その他]タブで変更できます。



レイヤーと高さは[自動接続の設定]ダイアログで設定した内容が反映されます。



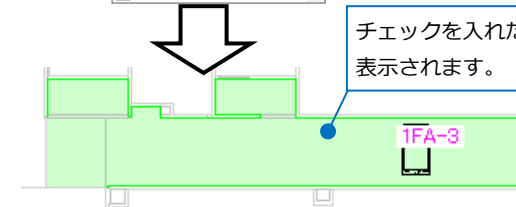
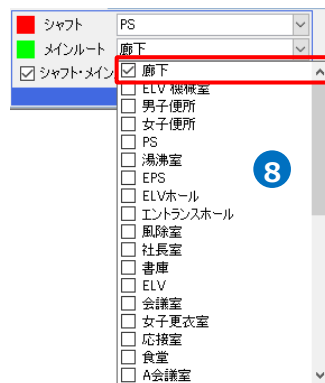
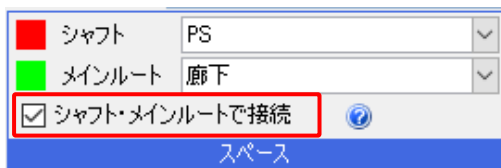
チェックを入れた部屋が赤で表示されます。

- 8 室内機を接続するメインルートの位置を、[メインルート]の部屋リストから選択します。今回は、[廊下]にチェックを入れます。

Memo

チェックを入れた部屋が複数ある場合は、終点側の機器器具から一番近い部屋がメインルートになります。

終点側の機器が1台のみの場合は、[シャフト・メインルートで接続]にチェックを入れると、シャフト・メインルートを通して接続します。チェックを外すと直接接続します。



チェックを入れた部屋が緑で表示されます。

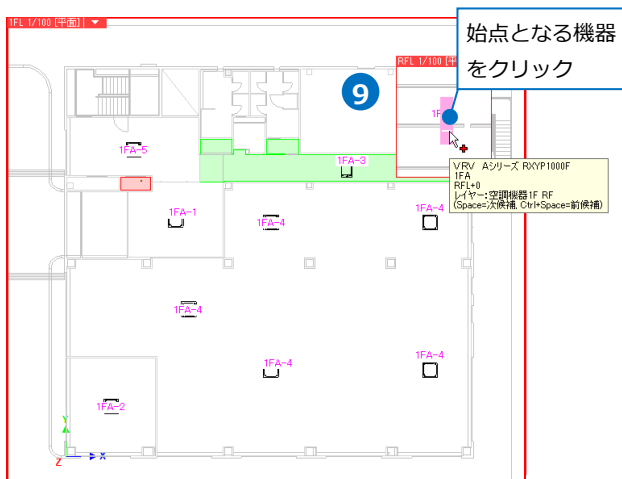
9 始点側の機器をクリックします。

Memo

機器以外に下記条件に一致する縦管も始点として指定できます。

- ・用途：「冷媒」
- ・材料：「冷媒用銅管(2管式)」、
「冷媒用銅管(3管式)」

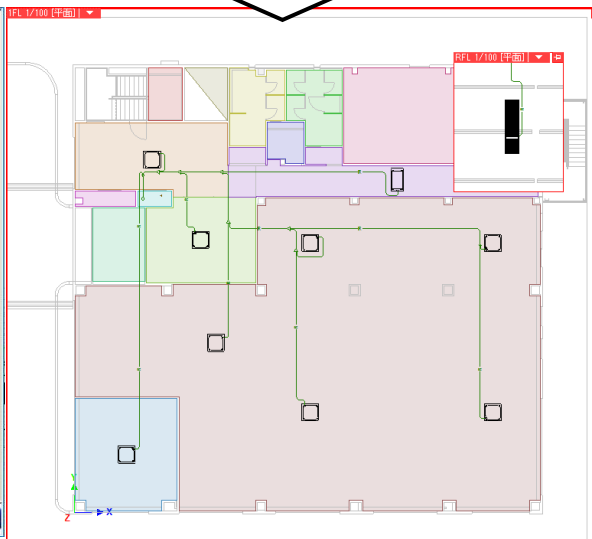
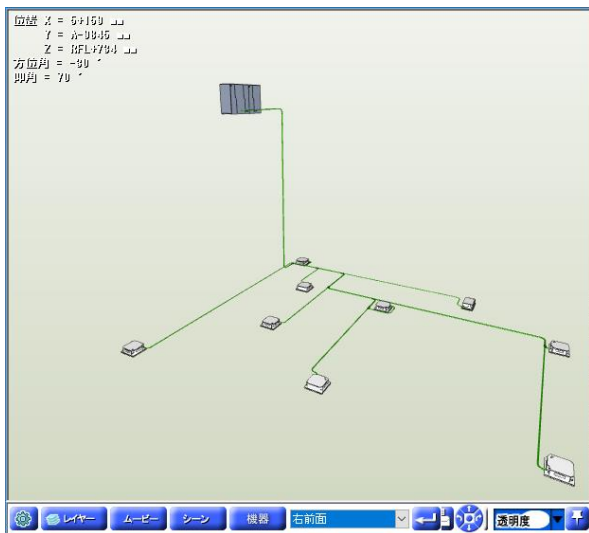
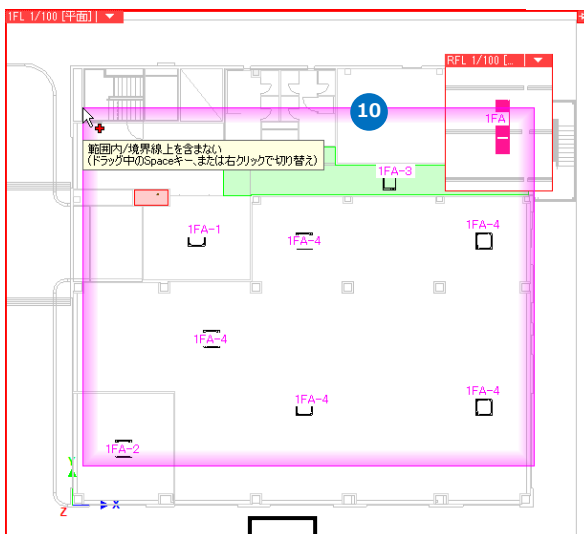
※指定できる機器の条件については、p8補足説明参照



10 終点側の機器器具を左ドラッグでまとめて選択し、コンテキストメニューで[確定]をクリックします。

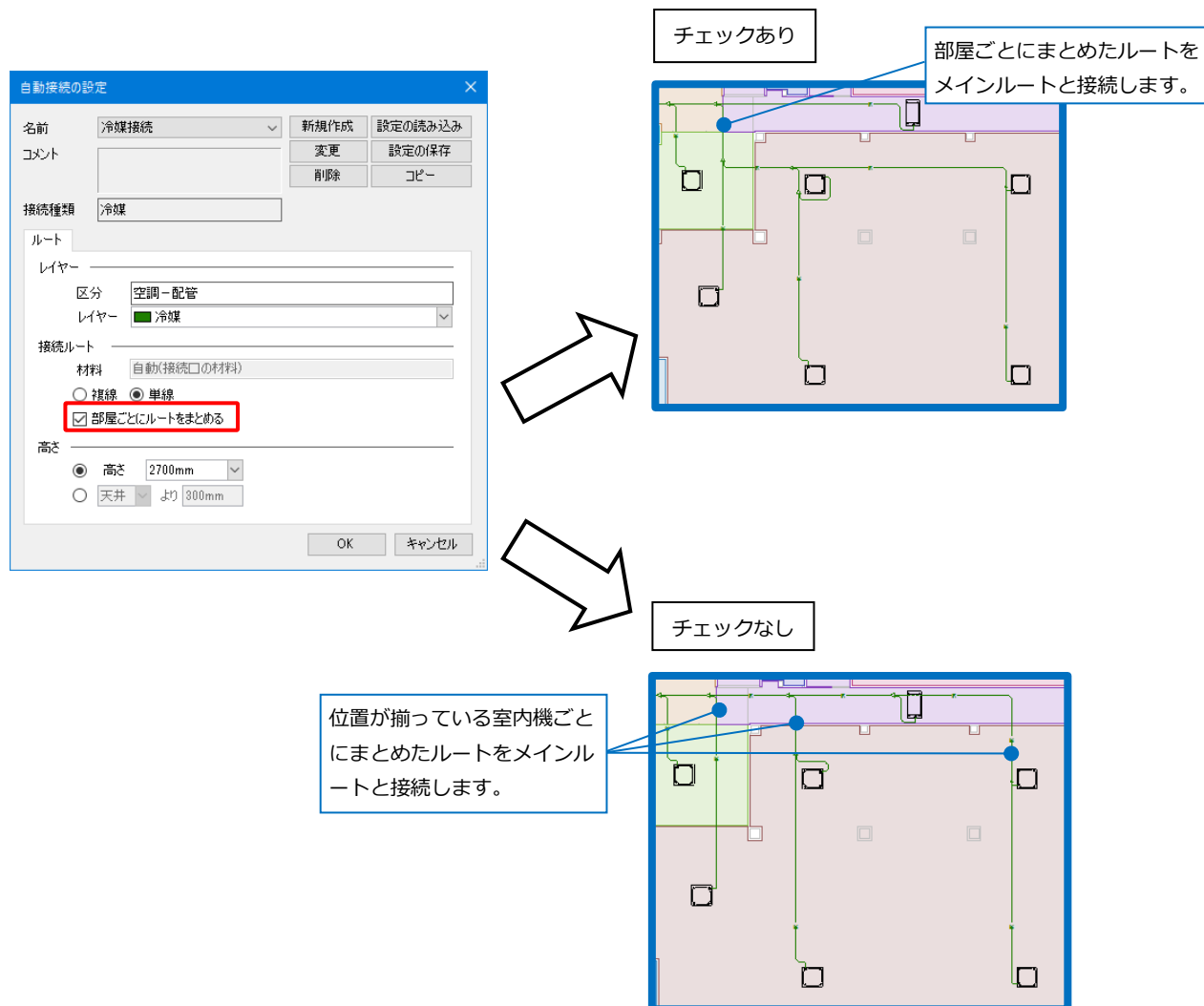
→室外機から室内機までの冷媒管が自動で接続されます。

11 もう一度コンテキストメニューから[確定]をクリックし、コマンドを終了します。



● 補足説明

図面上に部屋が設定されている場合、[自動接続の設定]で[部屋ごとにルートをもとめる]にチェックを入れておくと、室内機を部屋ごとにまとめてメインルートに接続することができます。チェックを外した場合は、位置が揃っている室内機ごとにまとめたルートをメインルートと接続します。



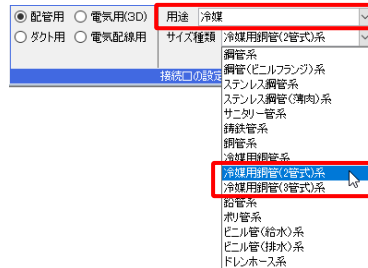
● 補足説明

冷媒配管の「自動接続」は下記の機器に対応しています。

[機器器具]タブ

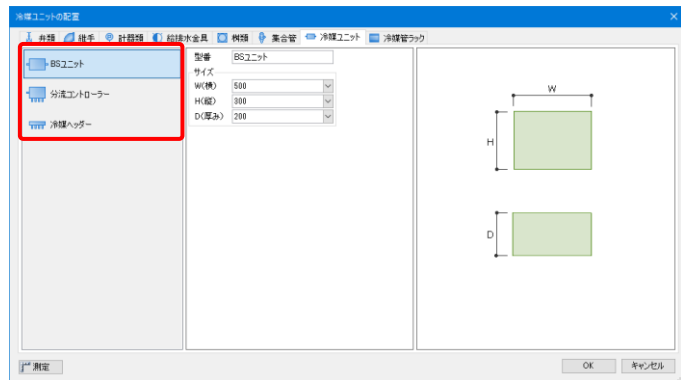
下記の条件と一致する[ユーザー接続口]を持つ機器(システム部材、ユーザー部材、メーカー提供部材)

- ・用途：「冷媒」
- ・サイズ種類：「冷媒用銅管(2管式)系」
「冷媒用銅管(3管式)系」

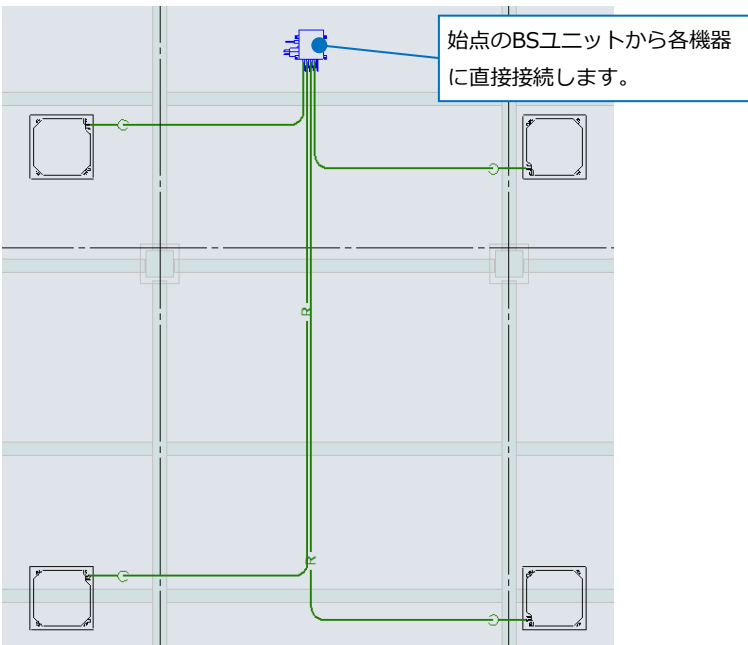


[配管]タブ

- [冷媒ユニット]- 「BSユニット」
- 「分流コントローラー」
- 「冷媒ヘッダー」



BSユニットのような複数接続口がある機器を始点として指定すると、BSユニットの各接続口から終点の各機器に直接接続します。[自動接続の設定]の[部屋ごとにルートをもとめる]の設定は反映しません。



3. ドレン管の自動接続

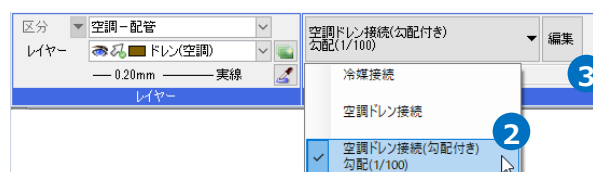
始点の室外機もしくは縦管と終点の室内機を選択し、ドレン管のルートを一括で作図します。ここでは始点に縦管を指定します。

勾配をつけて作図したり、ドレンアップして接続することもできます。

- 1 [機器器具]タブ-[自動接続]をクリックします。

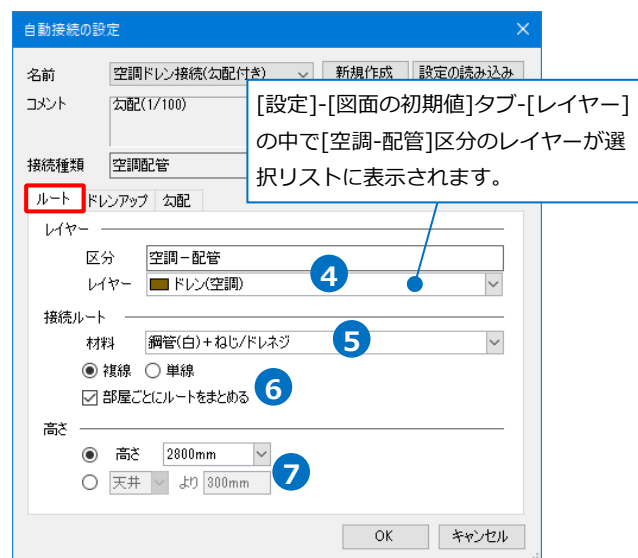


- 2 設定を選択します。今回は勾配付きでドレン管を作図するため、[空調ドレン接続(勾配付き)]を選択します。



- 3 [編集]をクリックします。

- 4 [自動接続の設定]ダイアログが開きます。
[ルート]タブで、レイヤー「ドレン(空調)」を選択します。



- 5 材料を選択します。

Memo
ドレン接続の場合、[設定]-[図面の初期値]タブ-[材料]で設定されている材料がプルダウンに表示されます。

- 6 接続ルートは「複線」を選択し、[部屋ごとにルートをまとめる]にチェックを入れます。
※[部屋ごとにルートをまとめる]については、
p7補足説明参照。

- 7 高さは、「2800」と入力します。

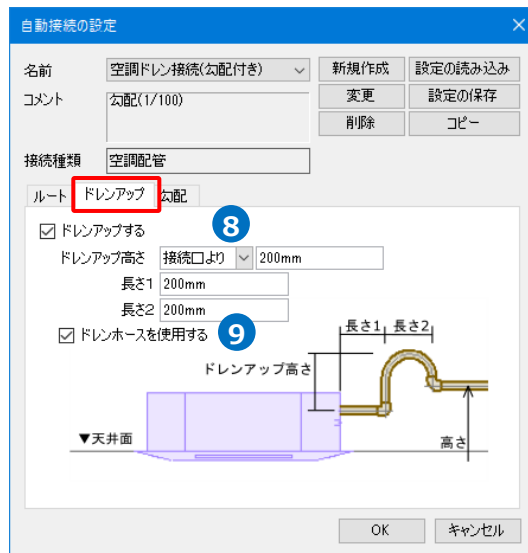
- 8 [ドレンアップ]タブをクリックします。
[ドレンアップする]にチェックを入れドレンアップ高さ、長さ1、長さ2を設定します。

Memo

ドレンアップ高さの基準は、「接続口より」「天井面より」のいずれかを選択できます。

ドレンアップ高さ **接続口より** 200mm

ドレンアップ高さ **天井面より** 400mm

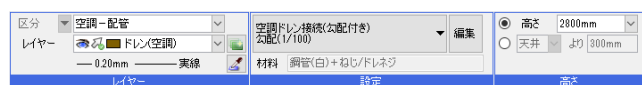


- 9 [ドレンホースを使用する]にチェックを入れます。
※[ドレンホースを使用する]については、
p 12補足説明参照。

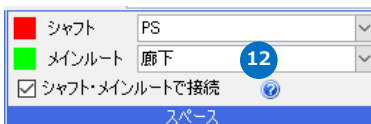
- 10 [勾配]タブをクリックします。
勾配値を設定し、勾配の基点を選択します。

- 11 [OK]をクリックして設定を閉じます。

- 12 室内機を接続するメインルート的位置を、[メインルート]の部屋リストから選択します。



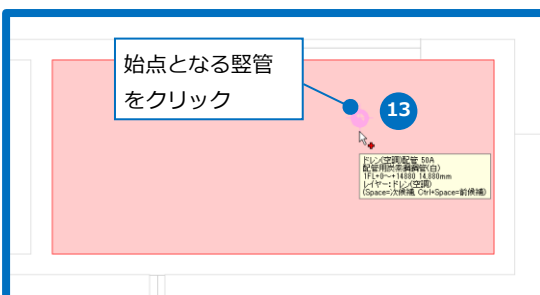
- 13 始点側の縦管をクリックします。



Memo

用途が「ドレン(空調)」の縦管が始点に指定できます。

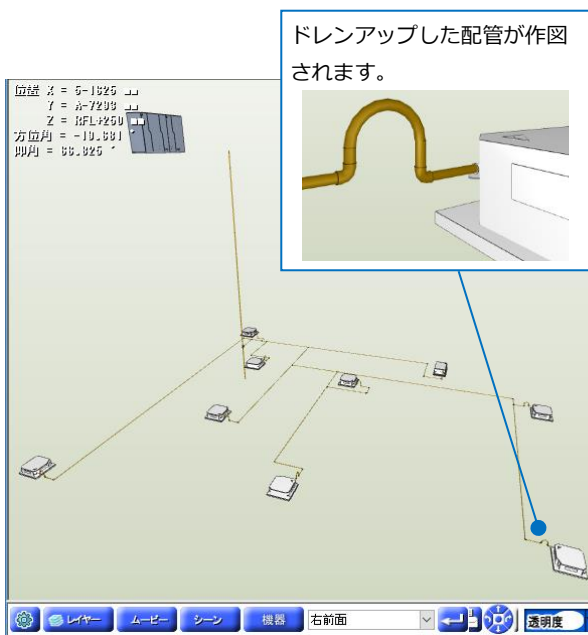
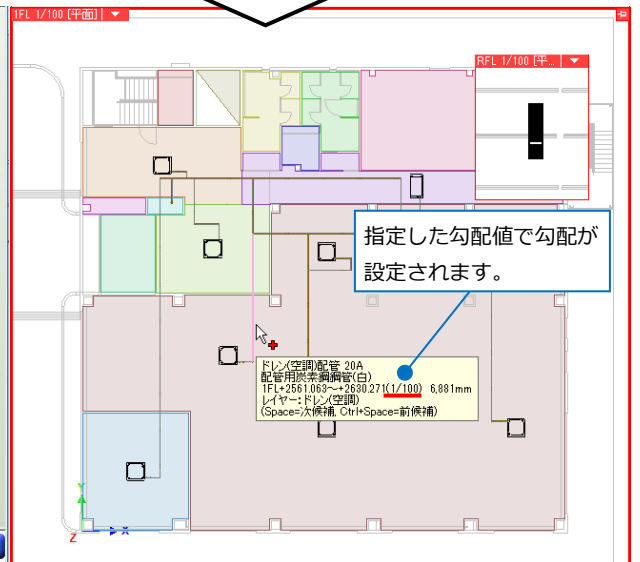
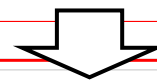
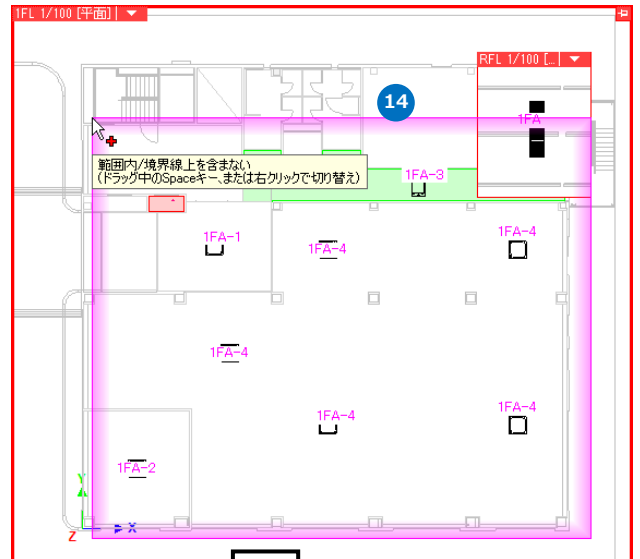
始点に縦管を指定した場合は、作図時に縦管が発生しないため[シャフト]の設定は不要です。



- 14 終点側の機器器具を左ドラッグでまとめて選択し、コンテキストメニューで[確定]をクリックします。

→ 縦管から室内機までのドレン管が自動で接続されます。

- 15 もう一度コンテキストメニューから[確定]をクリックし、コマンドを終了します。



● 補足説明

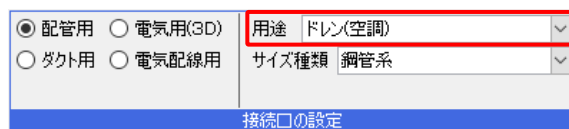
ドレン管の[自動接続]は下記の機器に対応しています。

[機器器具]タブ

下記の条件と一致する[ユーザー接続口]を持つ機器(システム部材、ユーザー部材、メーカー提供部材)

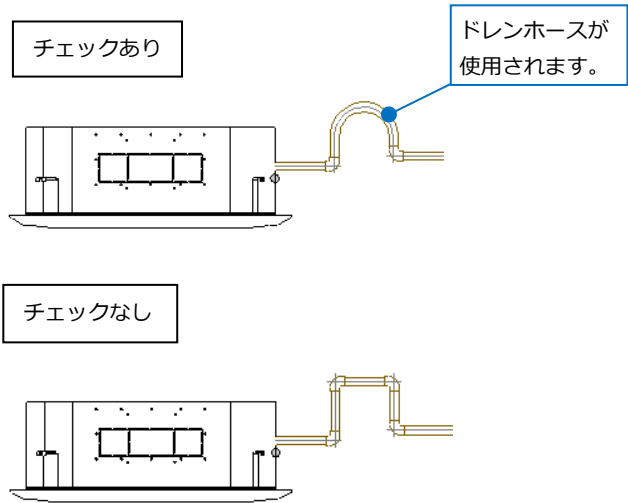
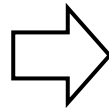
・用途:「ドレン(空調)」

※サイズ種類の指定はありません。



● 補足説明

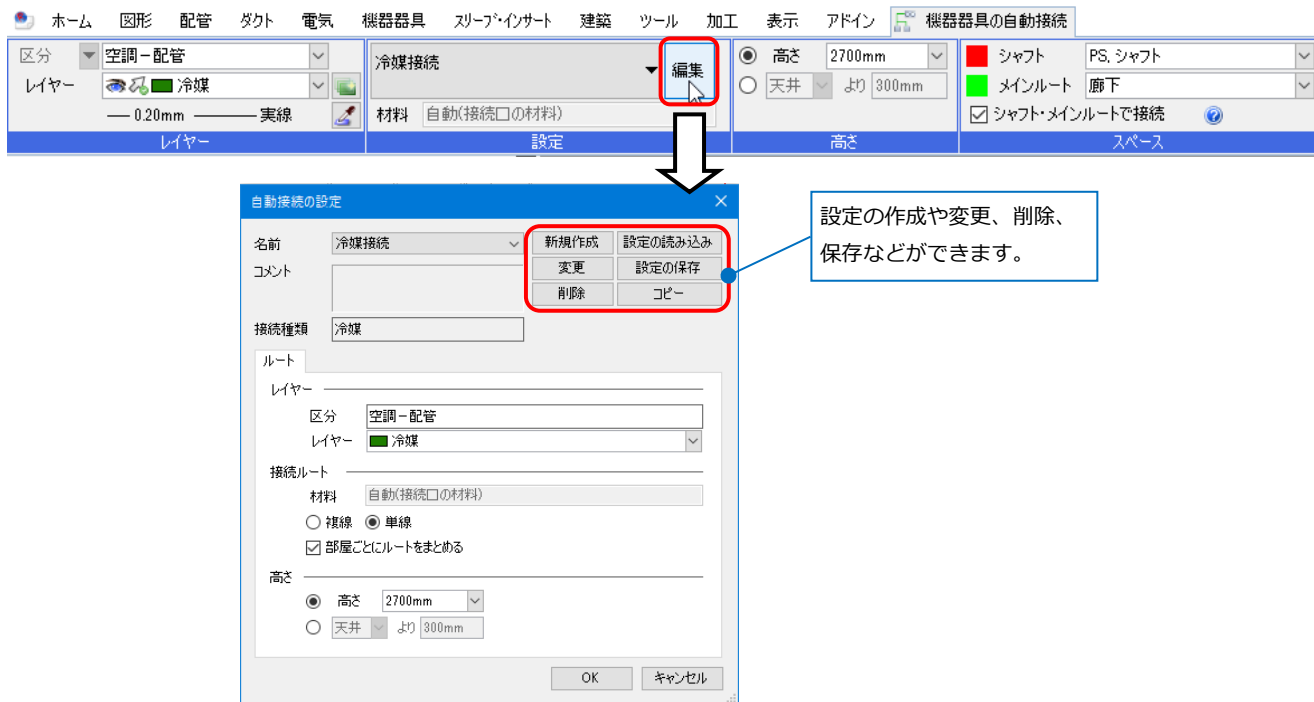
[自動接続の設定]-[ドレンアップ]タブで、[ドレンホースを使用する]にチェックを入れた場合、ドレンアップ時の材料にドレンホースを使用します。チェックを外した場合はドレンホースを使用せず作図します。



4.自動接続の設定の作成・保存

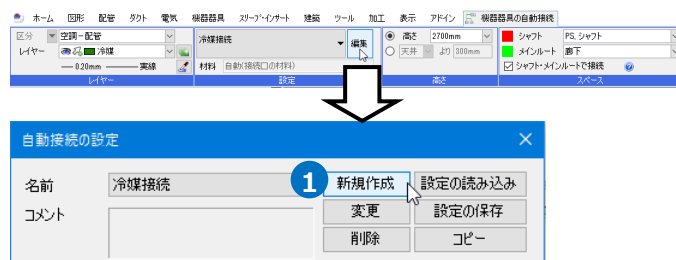
自動接続の設定を作成し、保存して受け渡しを行うことができます。

[機器器具]タブ-[自動接続]を起動し、[編集]をクリックすると、[自動接続の設定]ダイアログが表示されます。

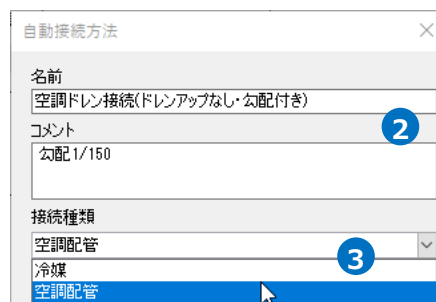


自動接続の設定の新規作成

① [機器器具]タブ-[自動接続]より[編集]をクリックし、[自動接続の設定]ダイアログの[新規作成]をクリックします。



② [自動接続方法]ダイアログで名前、コメントを入力します。



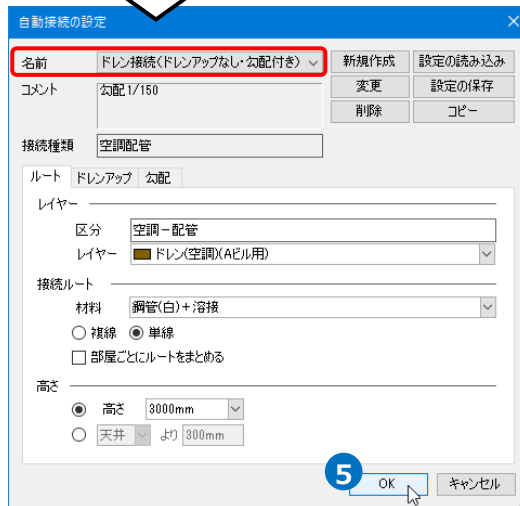
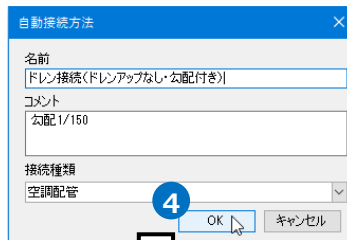
③ 接続種類を選択します。

Memo
冷媒接続の場合は、接続種類を[冷媒]、ドレン接続の場合は[空調配管]を選択します。
[空調配管]を選択した場合、[自動接続の設定]ダイアログに[ドレンアップ]タブと[勾配]タブが表示されます。

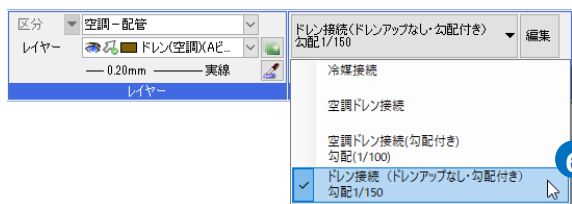
- 4 [OK]をクリックし、[自動接続方法]ダイアログを閉じます。

→新規の名前が作成されます。

- 5 ルートやドレンアップ、勾配の設定を行います。
[OK]をクリックし、追加した設定を保存します。



- 6 作成したテンプレートがリボンのドロップダウンリストに追加されます。



自動接続の設定の保存・読み込み

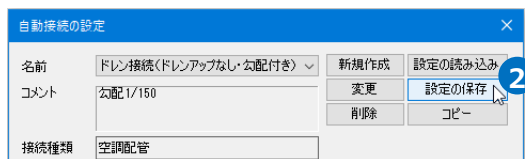
作成した設定を他のPCに受け渡します。

自動接続の設定を保存する

- 1 [機器器具]タブ-[自動接続]で保存する設定を選択して、[編集]をクリックします。



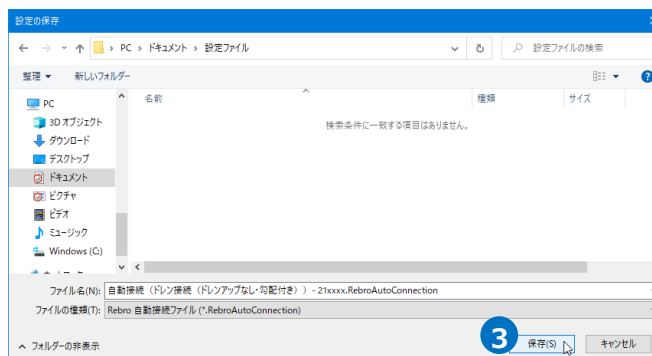
- 2 [自動接続の設定]ダイアログより[設定の保存]をクリックします。



- 3 [設定の保存]ダイアログでファイル名を入力して[保存]をクリックします。

→自動接続の設定ファイル

(* .RebroAutoConnection)が作成されます。

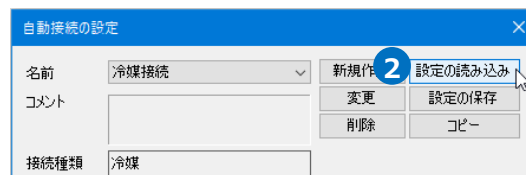


自動接続の設定を読み込む

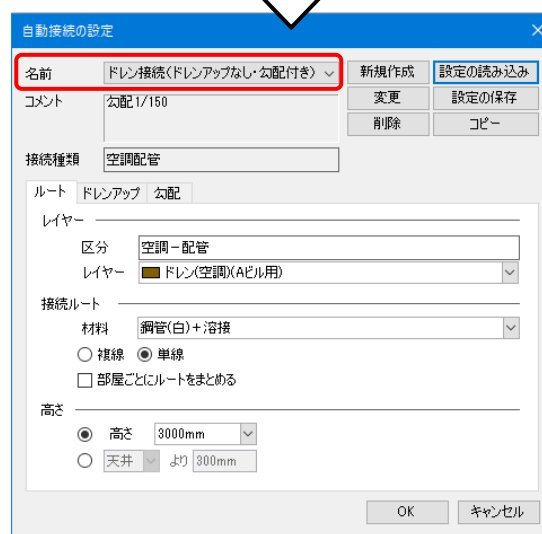
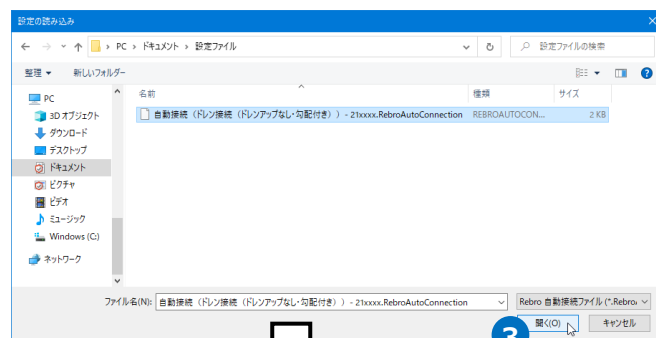
1 [機器器具]タブ-[自動接続]の[編集]をクリックします。



2 [自動接続の設定]ダイアログより[設定の読み込み]をクリックします。

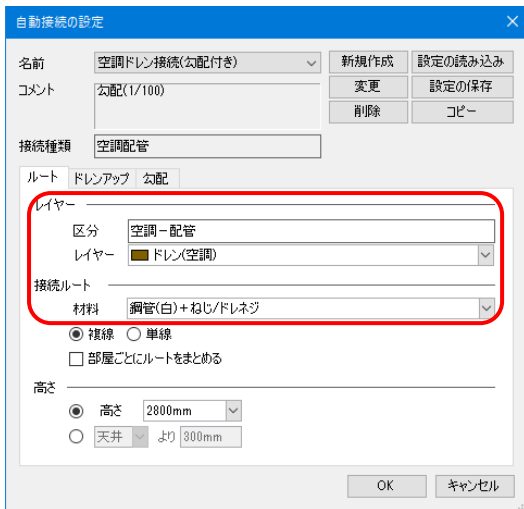


3 [設定の読み込み]ダイアログから自動接続の設定ファイル(*.RebroAutoConnection)を選択し、[開く]をクリックします。
→設定が追加されます。



● 補足説明

[自動接続の設定]の[ルート]タブのレイヤーと材料は、[設定]-[図面の初期値]タブの[レイヤー]と[材料]が反映されています。



保存側のPCで、読み込み側のPCの[図面の初期値]にないレイヤーや材料を設定した場合、保存側のPCの[図面の初期値]の設定ファイルも[自動接続の設定]ファイルと一緒に受け渡す必要があります。

[図面の初期値]の設定ファイルは、[設定]-[設定の読み込み・保存]から[ファイルに保存する]を選択し、[ファイルに保存する]ダイアログで[図面の初期値]-[レイヤー][材料]にチェックを入れて保存します。

